

# 第5章 目標達成に向けてのロードマップ

## 1) 推進施策の役割分担と実施スケジュール

隠岐諸島における観光地域づくりの将来像の達成に向けた各推進施策の主体を整理した、2024年までの実施方針を以下のロードマップに示します。

今後、2021年度の「観光地域づくり法人」の設立に向けて、2020年度に計画主体が中心となって、推進施策毎に実施主体やより詳細な実施内容を示した行動計画（アクションプラン）を作成し、確実に実施していきます。また、実施状況については、毎年、幹事会にて検証・評価し、必要に応じて対策を講じるとともに、推進体制の変更に合わせた見直し等を行い、施策の強化を図っていきます。

### ■ロードマップ

目指すべき将来像との関係			推進施策	計画主体	実施方針(目標)	重点的に取り組む期間				
世界中から人が訪れる島	のんびり、ゆっくりできる島	何度も訪れたくなる島				2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
			I. マーケティングの充実							
●	●	●	①マーケティングの体制づくり	【本部(事務局)】	客観的なデータに基づくマーケティングを行うため、専門的に調査・分析等を行うチーム体制を構築し、ターゲット戦略への提言や目標値に対する効果測定に活用できる仕組みを作ります。					
	●	●	②新たなマーケティング手法の導入	【本部(事務局)】	SNSなどのデジタルツールを活用した新たな手法を導入し、日々変わるニーズに速やかに適応できるマーケティング活動に取り組みます。					
●		●	③効果的なプロモーション(広報・宣伝)	【本部(事務局)】	隠岐4島のポータルサイト(ワンストップ窓口)の構築をはじめとするWEBメディアの活用などにより、情報を求める相手(ターゲット)に、適切なタイミングかつ効率的・効果的な手法で情報伝達(発信)する仕組みを作ります。					
			II. 島内消費の拡大							
●	●	●	①誘客の維持・促進	【本部(事務局)】	年々増加している訪日外国人観光客を満足させる受入環境の充実・強化や、離島の環境を活かして、隠岐をのんびり、ゆっくり楽しむことができる体験メニューやコンテンツの開発・充実、安定した消費が期待できるリピーターやファンの確保、増加を図るなど、ターゲットを明確にし、その属性に対して適切な誘客対策を実施し、観光客数の維持・向上に取り組めます。					
	●	●	②質の向上	【各島(支局)】 民間・町村	既存コンテンツのブラッシュアップのほか、ニーズに基づく今次客向けの着地型商品造成の強化、遊覧船等欠航時の速やかな代替メニュー提案や、季節や天候に左右されない全天候型コンテンツの開発に取り組み、観光消費機会を逃さず、観光客の満足度を高めます。					
			III. 島内経済循環の向上							
	●	●	①観光関連事業などにおける島内調達率の向上	町村・商工会等	隠岐諸島内での資源活用が可能な、観光に関わるモノ・サービスの島内調達率を積極的に高め、地域内経済循環の向上を図ります。					
			IV. 安定した経営基盤の確立							
●	●		①設備投資に対する支援	町村・商工会等	個人客やインバウンドの増加、長期滞在等、多様な旅行形態やニーズの変化に対応した宿泊・観光施設の整備・改修や、多様化が進むキャッシュレス決済サービスの導入、地元食材の流通改善に向けた設備投資などについて、各町村の実情に応じた支援策を講じていきます。					
	●	●	②人手不足対策	町村・商工会等	人材需要の繁閑差が大きい観光産業において、安定的に人手を確保するため、海士町のマルチワーカーの仕組みの隠岐全体への展開など、新たな仕組みづくりを構築するとともに、自治体等との連携による隠岐全体での観光人材の採用・育成プログラムの構築や事業者との人材マッチング、組織間の人材交流など、総合的な人材確保対策に取り組めます。					
推進体制・仕組みづくり(役割分担・人材育成等)						観光地域づくり法人(DMO)				
						第1期【準備】	第2期【設立】	第3期【拡充】		

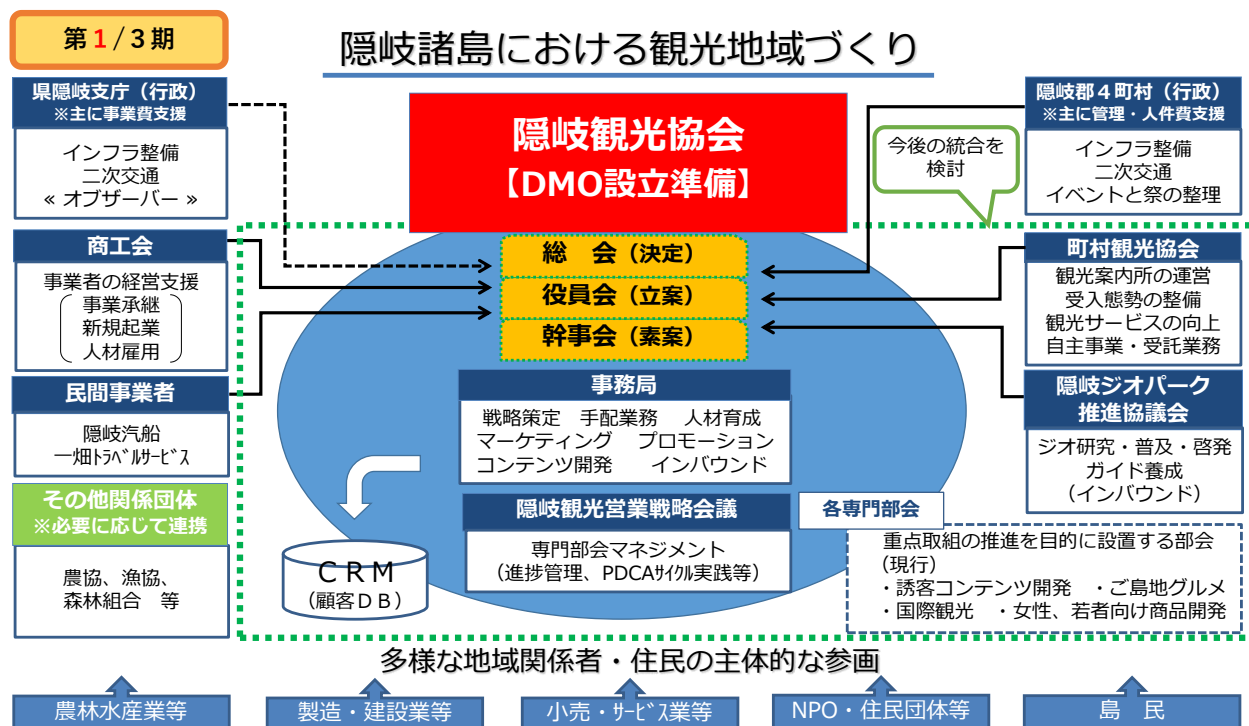
## 2) 推進体制・仕組みづくりの実施スケジュール

隠岐諸島の観光地域づくりの枠組みは、観光振興の機能を集約する理想的な推進体制の早期確立に向けて、第1期（2020年度）・第2期（2021年度）・第3期（2022年度以降）に分けて、段階的に進めていきます。

### 【第1期／2020年度】

隠岐4町村の広域で取り組む観光地域づくりの準備期と位置付け、各組織間や事業のダブリ、モレを解消するとともに、役割分担を明確化します。

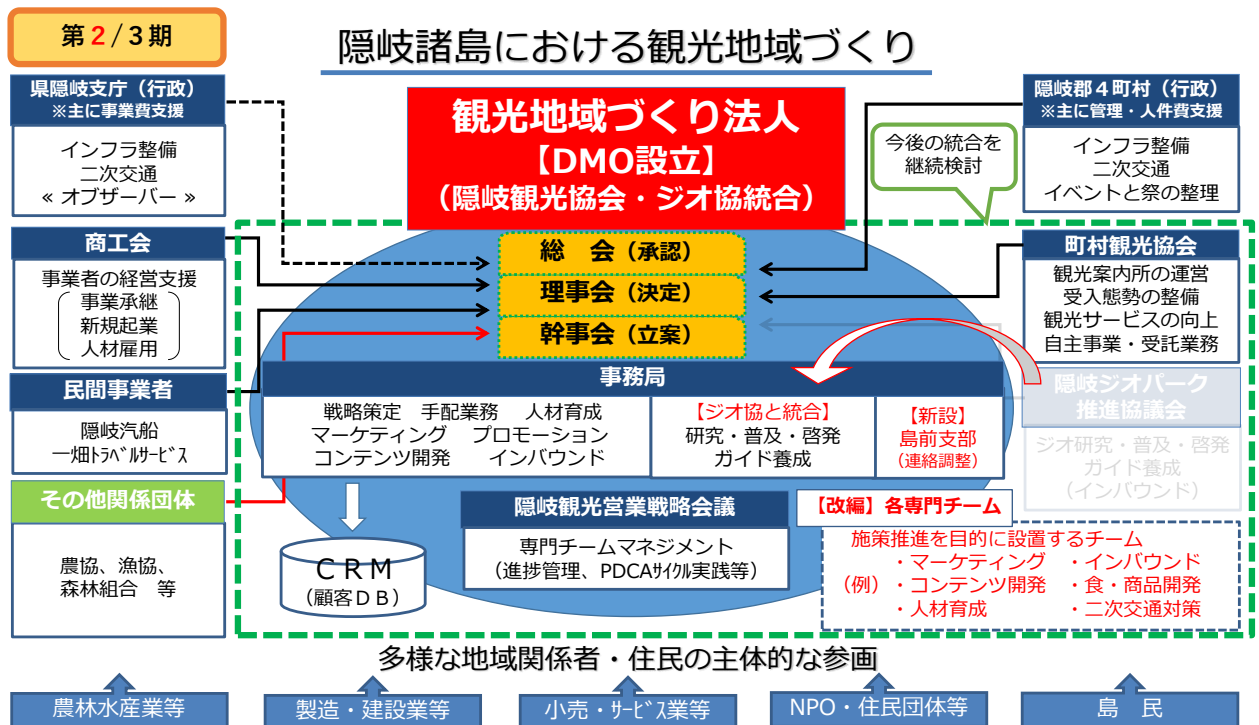
- ダブリ業務等の集約化や効率化の推進
  - インバウンドを含む誘客対策・プロモーション（広報・宣伝）の役割分担の整理・実行
  - 案内業務の役割分担の明確化
  - インバウンド対応機能の拡充
  - 役割分担した上記の業務を円滑に進めるための人材配置や人材交流 など



【第2期／2021年度】

観光地域づくりの中核的機能を担う法人を立ち上げ、多様な地域関係者・住民の参画体制の基礎作りを行います。

- 広域業務の拡充及び効率化の促進
  - 広域的な業務を担う隠岐観光協会と隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会の統合による効率化
  - 島前3島の連携強化（広域機関に島前支部の設置）
- 骨格となる組織運営体制の構築
  - 広域的な業務・機関の統合にともなった、円滑な組織運営（意思決定の迅速化・明確化、実行力の強化）ができる体制の構築（観光地域づくり法人の設立） など



## 【第3期／2022年度以降】

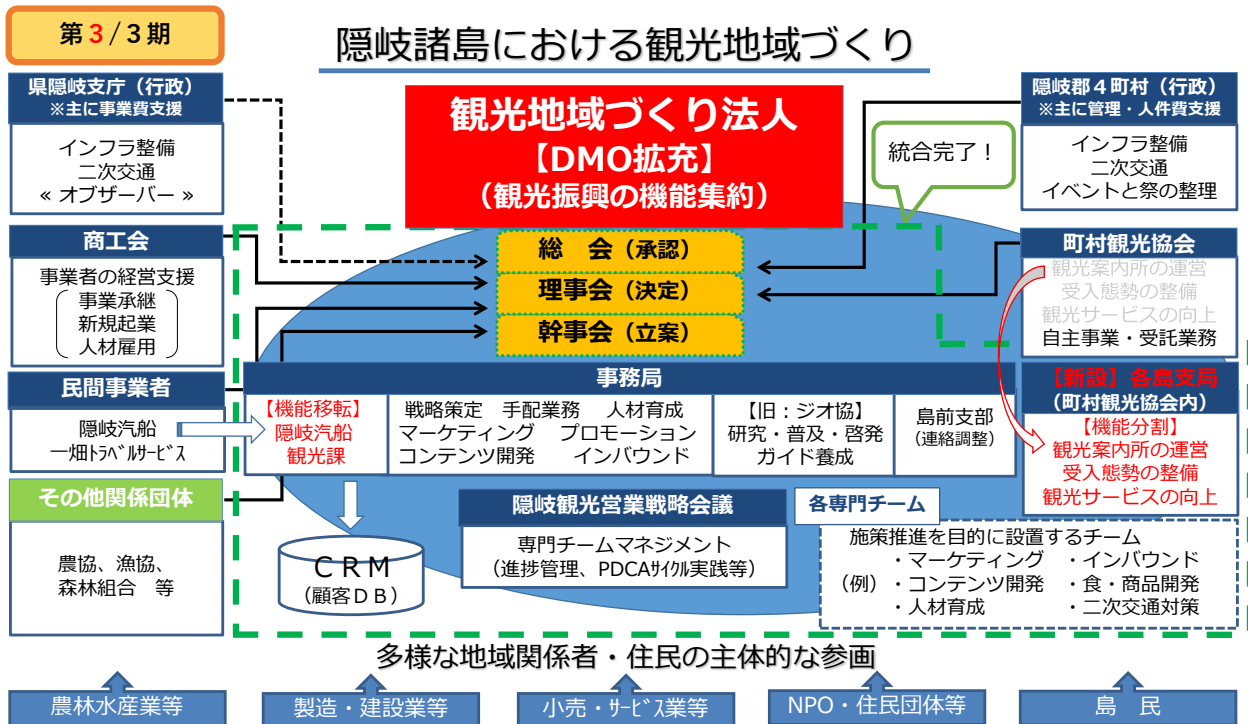
隠岐諸島が一体となって観光振興に取り組める体制を確立していきます。

### ● 推進体制の拡充

- 第2期までの組織運営体制の運用を通し、より効率的・効果的な推進体制を目指して、組織の再編を検討し、改善を行う など

(例)

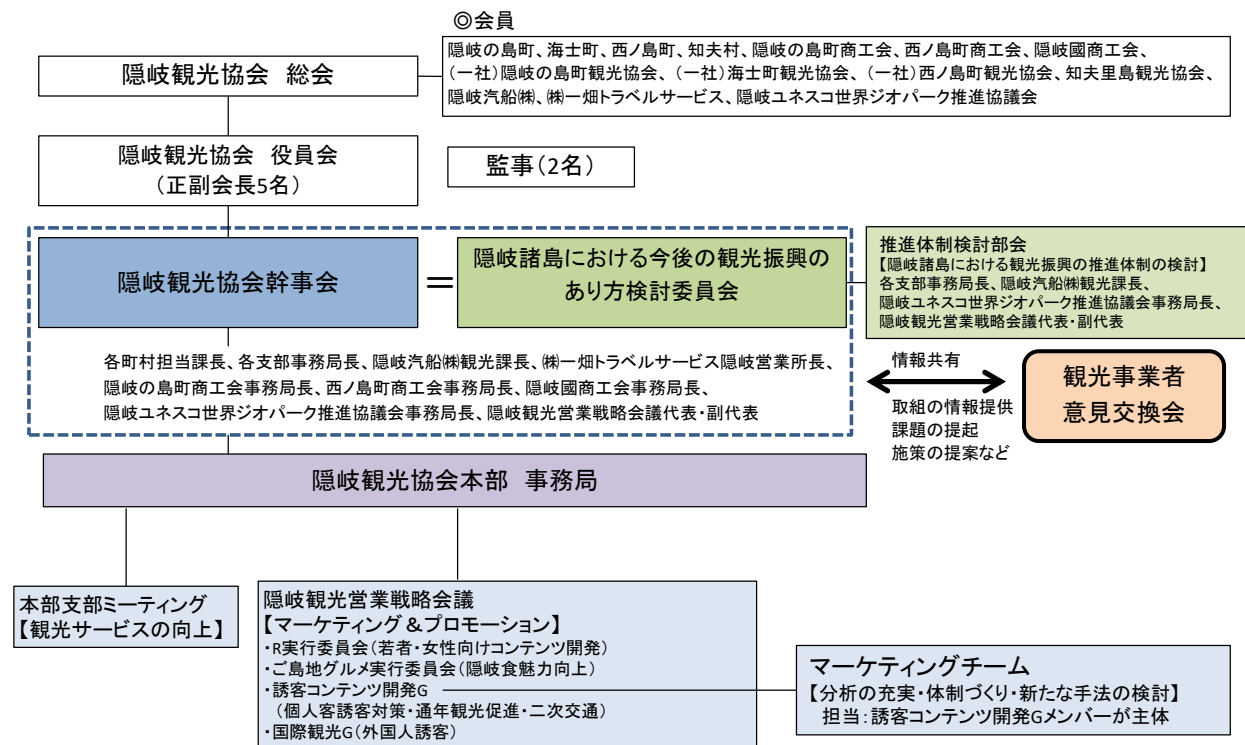
- ・ 町村観光協会の観光案内所運營業務等を機能分割して観光地域づくり法人に集約
- ・ 隠岐汽船の観光手配業務等を機能移転して観光地域づくり法人に集約 など



# 資料編

## ■観光推進体制

### ●策定体制



### ●隠岐諸島における今後の観光振興のあり方に関する検討委員会

		所属・職名	氏名
委員	委員長	隠岐の島町 商工観光課長	鳥井 登
	副委員長	西ノ島町 観光定住課長	福岡 章仁
		海士町 交流促進課長	柏谷 猛
		知夫村 地域振興課長 兼 知夫里島観光協会 事務局長	崎 博一
		一般社団法人隠岐の島町観光協会 事務局長	井上 朋張
		一般社団法人西ノ島町観光協会 事務局長	中山 佳昭
		一般社団法人海士町観光協会 事務局長	波多 努
		隠岐汽船株式会社 観光課長	石田 圭
		株式会社一畑トラベルサービス 隠岐営業所長	山村 正樹
		隠岐の島町商工会 事務局長	齋藤 福昌
		西ノ島町商工会 事務局長	小中 一成
		隠岐國商工会 事務局長	佐藤 賢一
		隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 事務局長	野邊 一寛
	副委員長	隠岐観光営業戦略会議 代表	横地 廉平
		隠岐観光営業戦略会議 副代表	青山 敦士
事務局		隠岐観光協会 事務局長	角橋 隼人
		隠岐観光協会 観光コーディネーター	楨原 尚樹

●推進体制検討部会

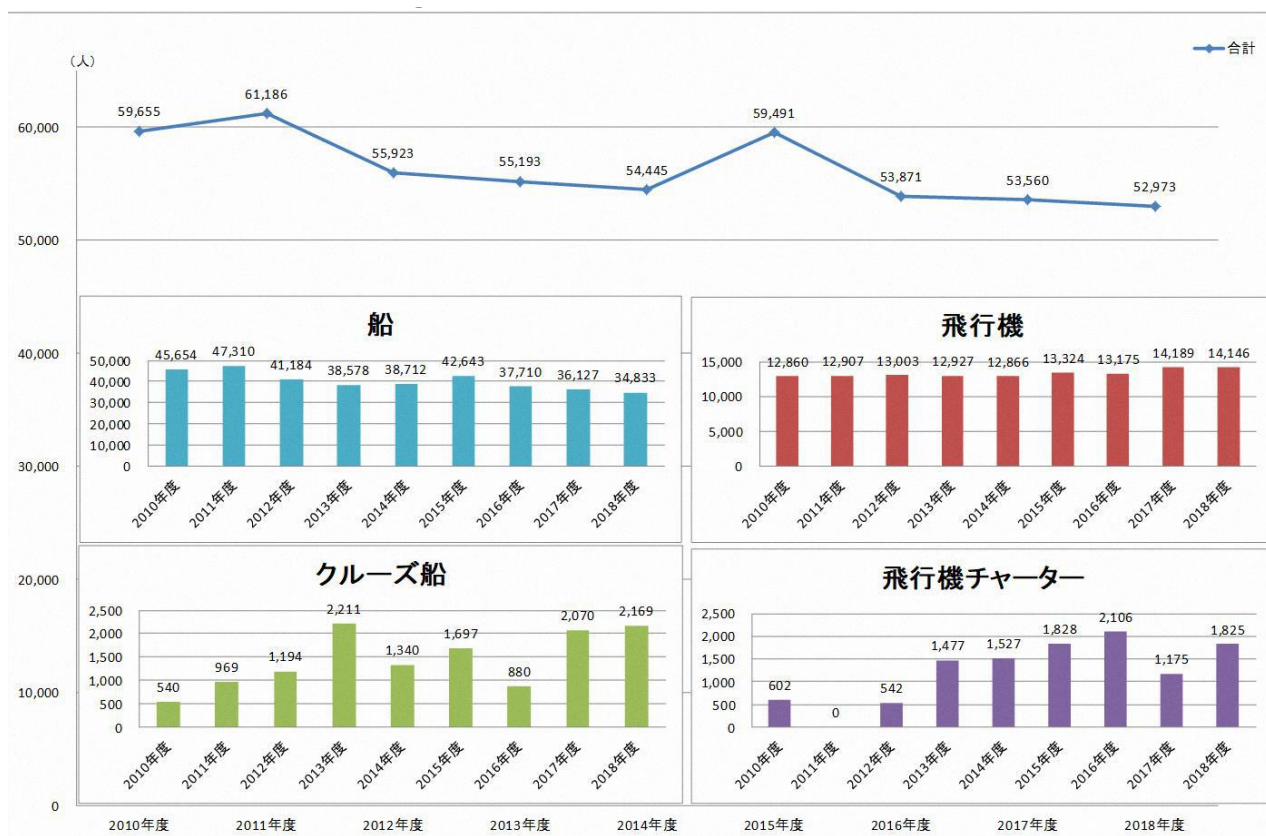
		所属・職名	氏名
部会員	部会長	隠岐ユネスコ世界ジオパーク推進協議会 事務局長	野邊 一寛
		一般社団法人隠岐の島町観光協会 事務局長	井上 朋張
	副部会長	一般社団法人西ノ島町観光協会 事務局長	中山 佳昭
		一般社団法人海士町観光協会 事務局長	波多 努
		知夫里島観光協会 事務局長	崎 博一
		隠岐汽船株式会社 観光課長	石田 圭
	副部会長	隠岐観光営業戦略会議 代表	横地 廉平
		隠岐観光営業戦略会議 副代表	青山 敦士
		隠岐観光営業戦略会議 副代表	八幡 洋公
		隠岐観光営業戦略会議 副代表	伊藤 将宏
事務局		隠岐観光協会 事務局長	角橋 隼人
		隠岐観光協会 観光コーディネーター	楨原 尚樹

●策定経過

年月	あり方検討委員会	推進体制検討部会	意見交換会
2019年 6月	○策定方針の確認		① 検討の方向性（4本柱）の共有、 重点的な取組
7月	① 重要取組項目の検討 目標数値の設定方針 重点取組項目		
8月	② 中長期的なビジョン骨子 （素案）の検討 ビジョン骨子について議論		
9月		① 各組織の現状と課題の共有	
10月	③ 中長期的なビジョン骨子につ いて	② 課題解決に向けた方策及び目 指す姿の方向性の検討	② 目指す姿の共有及び中長期ビ ジョンに取り込むべき推進施 策（案）の検討
11月		③ 推進体制（案）の共有と推進 体制づくりのスケジュール	
12月	④ ビジョンの検討 具体的な取組検討、組織運営体制、 連携体制等について検討		
<b>中間報告書（ビジョン骨子）</b>			
2020年 1月	⑤ ビジョンのまとめ ビジョン（案）について検討		
2月			③ 中長期的な観光振興ビジョン （案）に対する意見交換会
3月	⑥ 最終報告書（案）の確認		
<b>最終報告書</b>			

## ■隠岐諸島における観光の現状

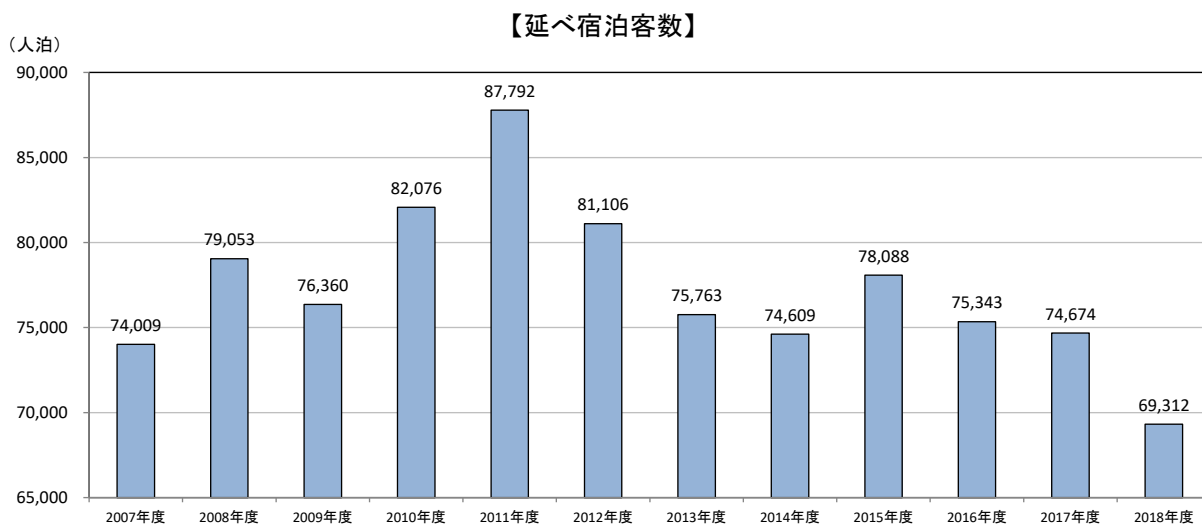
### ●推定観光客数



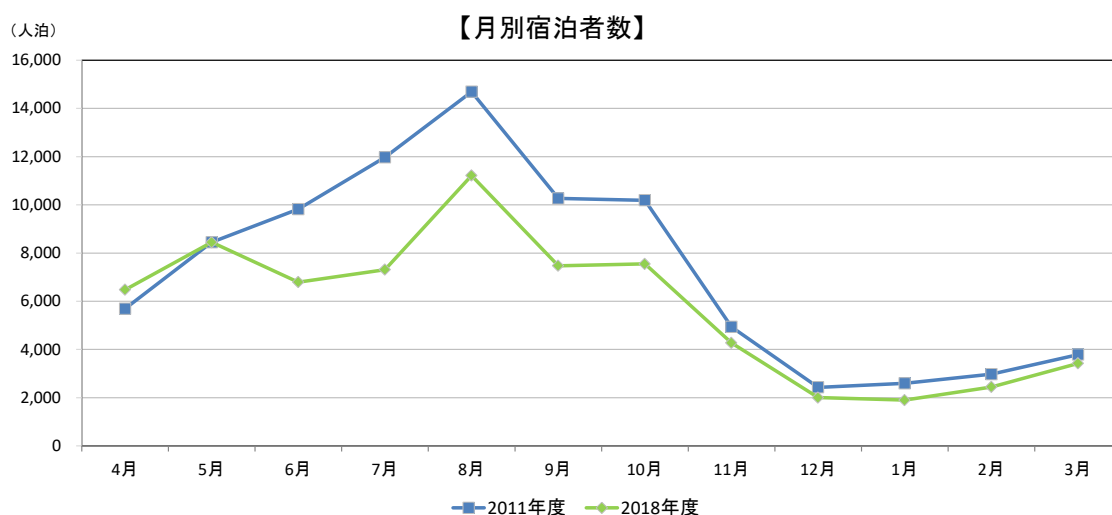
出典: 隠岐観光協会集計資料

隠岐諸島への観光客数は、50,000～60,000人程度で推移しており、減少傾向にあります。交通手段別では、船での来島が最も多く、全体の約65%です。次に多いのは飛行機での来島で、微増傾向にあります。クルーズ船・チャーター便での来島は数としては少ないですが、増加傾向にあります。

●宿泊客数（隠岐観光協会の調査対象施設（15施設）の調査データ）



隠岐の主要宿泊施設への宿泊客数は、2011年度のピーク時から約18,000人泊減少し、2018年度はここ10年で最も少ない宿泊客数となっています。

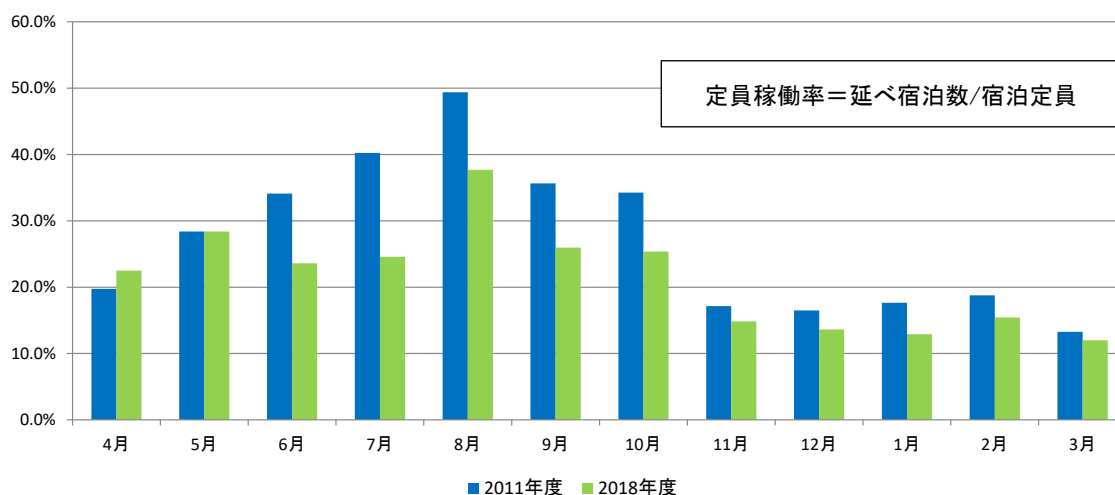


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2011年度	5,691	8,445	9,822	11,971	14,690	10,265	10,191	4,935	2,429	2,595	2,973	3,785	87,792
2018年度	6,479	8,446	6,792	7,312	11,215	7,474	7,548	4,271	2,006	1,901	2,444	3,424	69,312

月別宿泊者数は、8月の夏休みシーズンが最も多くなっており、12・1・2・3月の冬の時期は観光施設やアクティビティが休みに入ることもあり、閑散期となっています。2011年度時点では、5月のゴールデンウィーク時に増加がみられましたが、2018年度では大幅な増加は見られません。



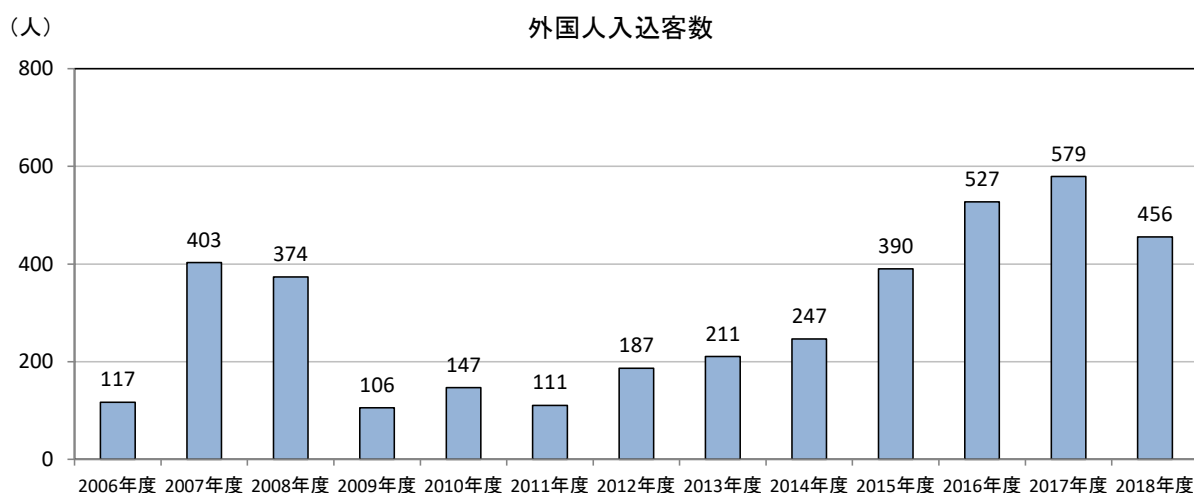
【月別定員稼働率】



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
月客室数	7,830	8,091	7,830	8,091	8,091	7,830	8,091	7,830	4,264	4,264	4,592	7,704	84,508
宿泊容量	28,800	29,760	28,800	29,760	29,760	28,800	29,760	28,800	14,716	14,716	15,848	28,520	308,040
2018年度	22.5%	28.4%	23.6%	24.6%	37.7%	26.0%	25.4%	14.8%	13.6%	12.9%	15.4%	12.0%	22.5%
2011年度	19.8%	28.4%	34.1%	40.2%	49.4%	35.6%	34.2%	17.1%	16.5%	17.6%	18.8%	13.3%	28.5%

宿泊施設における月別の定員稼働率は、2018年度では最も高い8月でも40%以下で、冬の閑散期には15%程度となっています。

●外国人入込客数

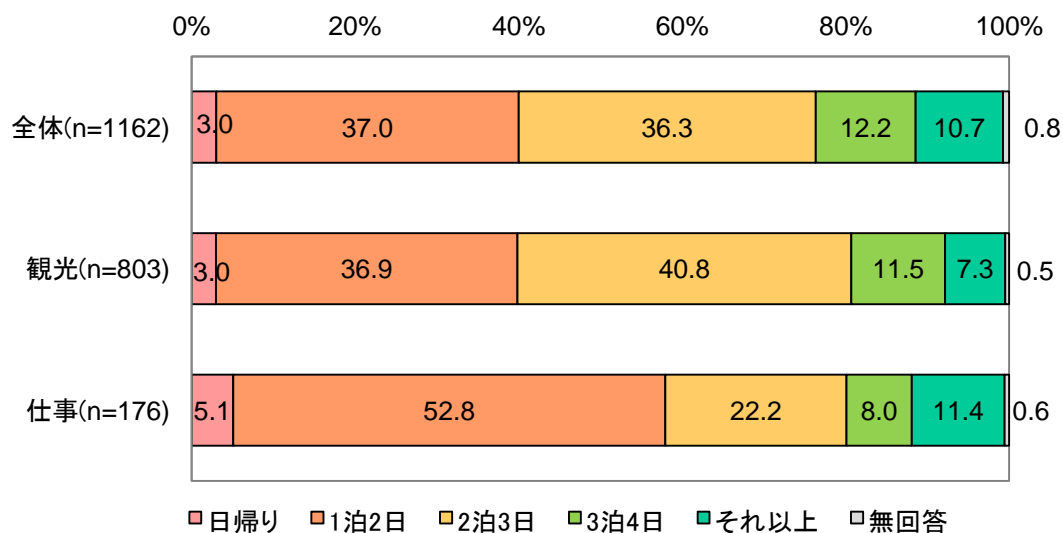


出典: 隠岐汽船データ

外国人入り込み客数はここ10年で見ると増加傾向にあり、近年は500人前後で推移しています。

●滞在日数

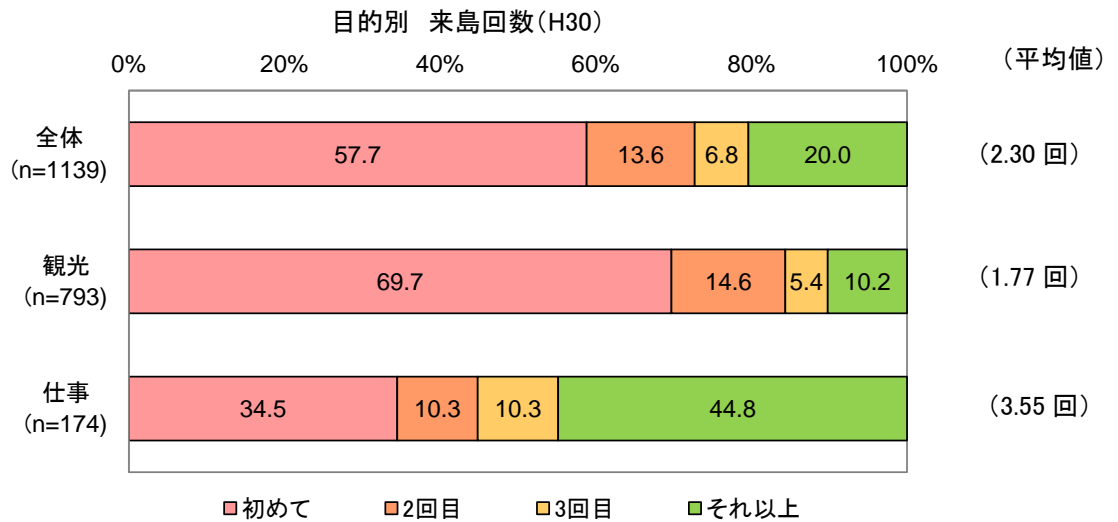
目的別 宿泊滞在日数(H30)



出典: 隠岐観光協会のアンケート調査

観光目的での隠岐での滞在日数は、2泊3日が1番多く、1泊2日がそれに続き、この2つで全体の75%以上を占めます。4泊以上する人も7.3%と一定数います。

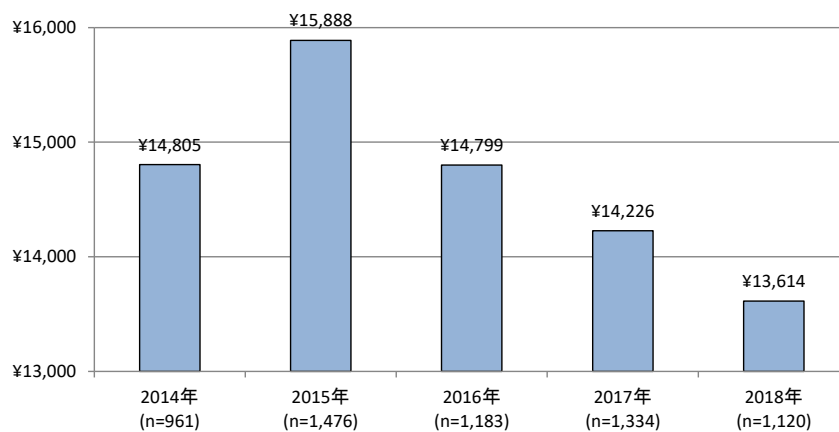
●来島回数



出典: 隠岐観光協会のアンケート調査

観光目的での隠岐訪問者の来島回数は、初めての人が約 70%と最も多く、4 回以上のリピーターも 10%程度います。

●消費金額（宿泊費・隠岐までの交通費を除く）



出典: 隠岐観光協会のアンケート調査

隠岐来島者の消費額は、1 万 3 千~5 千円程度で推移していますが、ここ数年は減少傾向です。

## ■隠岐諸島の特徴と観光産業の位置づけ

隠岐地域は、宿泊業・飲食サービス業、運輸業、漁業などの付加価値額の割合が高く、これらは地域の重要な産業となっています。業種別従業者数で見ても、宿泊業・飲食サービス業の従業員数の割合も高くなっています。

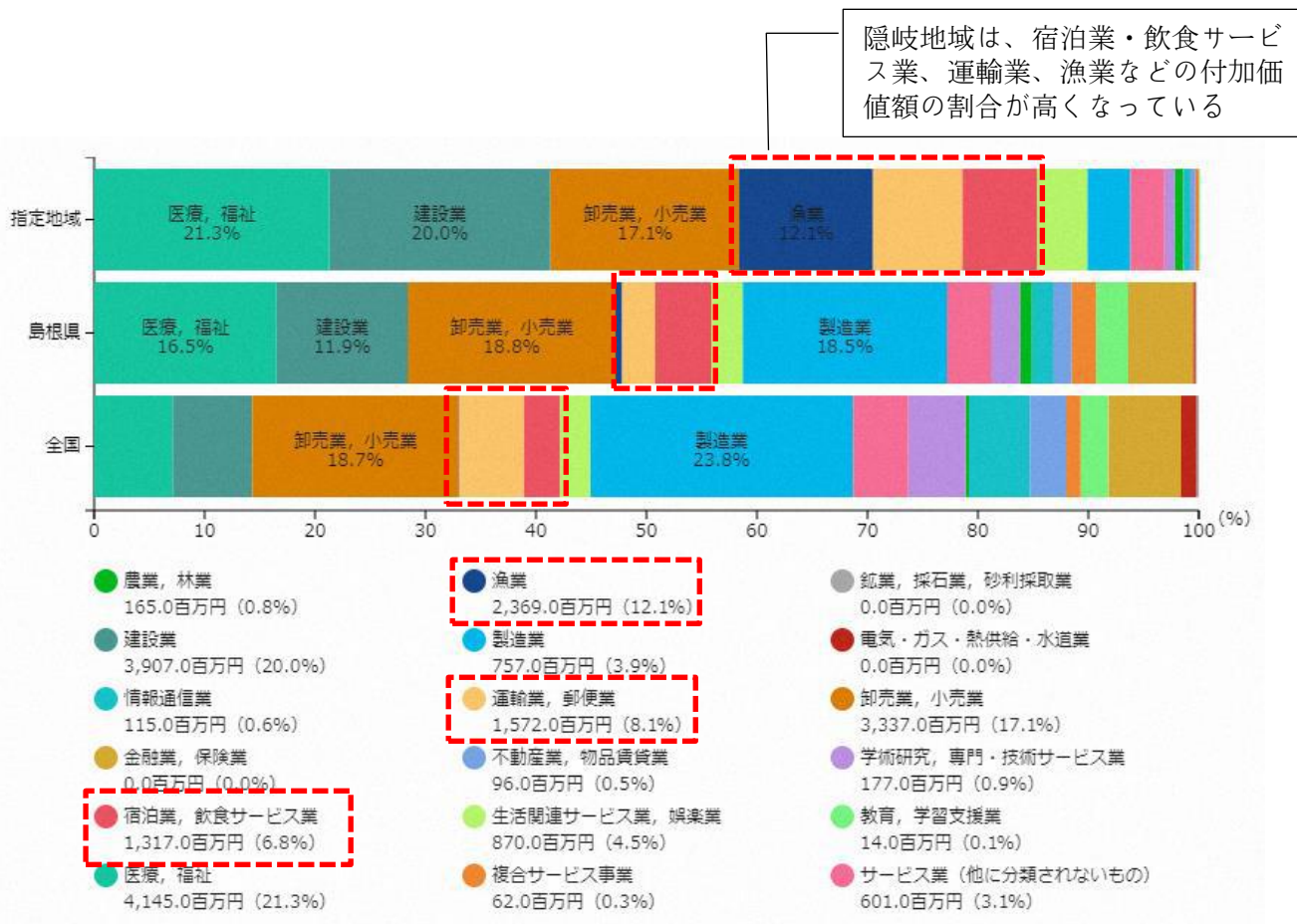
ユネスコ世界ジオパークにも認定された世界有数の自然環境を有し、離島ならではの農林水産資源が豊富にあります。これらの地域資源を活かしながら、観光産業（宿泊、飲食サービス業、小売業等）が発展してきました。

持続可能な地域社会を構築していくには、外貨獲得や若者の雇用促進に寄与し、他の産業への影響力も高い（すそ野が広い）観光産業の維持・継承が重要となってきます。

将来的にも、地域が、観光産業が盛んな、観光で稼ぐことのできる島であり続けることは、隠岐全体が豊かな島であり続けることにつながる、必要な要素となります。

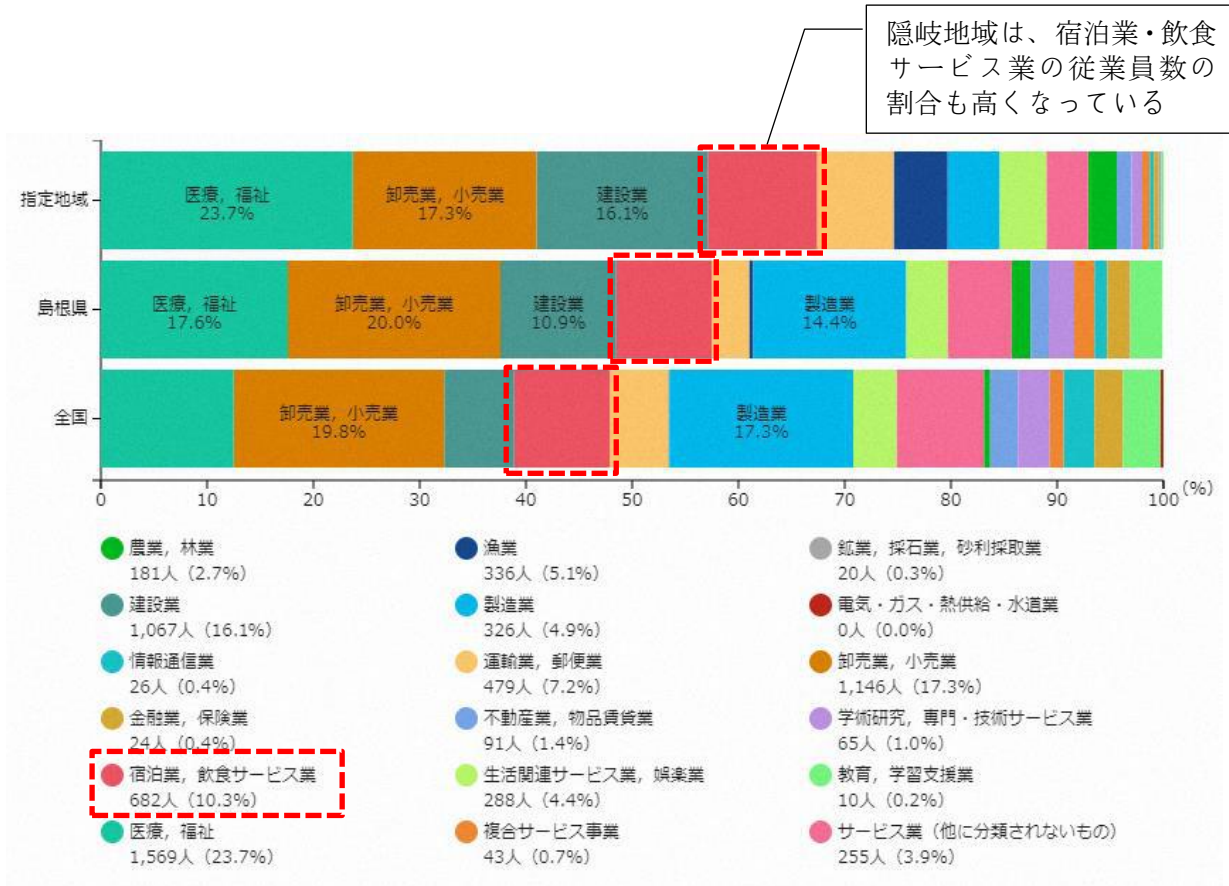
### 付加価値額(企業単位)2016年

指定地域：海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町



## 従業員数(企業単位)2016年

指定地域：海士町、西ノ島町、知夫村、隠岐の島町



■目標数値の設定に関する資料

●個別目標

①世界中から人が訪れる島

項目	現状値 (2018年)	2024年	2029年	出典
推定観光客数	52,973人/年	54,000人/年	55,000人/年	隠岐観光協会の集計データ
外国人 入込客数	456人/年 (0.9%)	3,000人/年 (5.6%)	5,500人/年 (10.0%)	隠岐汽船データ

※推定観光客数は、外国人観光客の誘客強化により、概ね現状維持（微増）とし、平均宿泊数の増による総括目標達成を目指す。

参考(外国人宿泊客数・島根県観光動態調査・鳥取県観光入込動態調査)

- ・ 松江市(75,351人泊)
- ・ 出雲市(7,875人泊)
- ・ 隠岐諸島(896人泊)
- ・ 鳥取県東部(31,932人泊)
- ・ 水木しげる記念館来場者数(12,260人)
- ・ とっとり花回廊(18,494人)

※山陰両県の外国人延べ宿泊者数の2011年から2018年の年間伸び率＝約128%

今後10年間、年間128%増大すると試算すると、2029年には5,384人となり、5,500人/年と設定

②のんびり、ゆっくりできる島

項目	現状値 (2018年)	2024年	2029年	出典
観光目的の 平均宿泊数	1.5泊 (1.3泊)	1.7泊 (1.5泊)	2.0泊 (1.7泊)	延べ宿泊客数 /推定観光客数
(2泊3日以上の 宿泊比率)	(約60%)	(約65%)	(約70%)	隠岐観光協会 アンケート調査

※観光目的の平均宿泊数は日帰り客など宿泊施設を利用しない推定観光客を除いて算出(宿泊者の平均宿泊数)。下段の( )内は日帰り客などを含めた場合の参考数値。

日帰り観光客数を推測する適当なデータはないが、概ね15%(約8,000人)と推定し、今後も現状維持するものとして算出。

宿泊者の平均宿泊数=68,085人泊÷(52,973-8,000)人=1.514泊⇒1.5泊

平均宿泊数=68,085人泊÷52,973人=1.285泊⇒1.3泊

③何度も訪れたいくなる島

項目	現状値 (2018年)	2024年	2029年	出典
2年以内に来島 するリピーター 観光客の割合	3.7% (1,960人/年)	10% (5,400人/年)	20% (11,000人/年)	隠岐観光協会 アンケート調査 ×推定観光客数
ファンクラブの 人数	—	累計27,000人	累計55,000人	今後の検討
(観光目的の 平均来島回数)	1.77回	—	—	隠岐観光協会 アンケート調査

※2年以内のリピーター来島観光客(30/803=3.7%): 隠岐観光協会アンケート(H30)  
毎年、推定観光客数の概ね10%のファンクラブ登録者の確保を想定

●総括目標

項目	現状値 (2018年)	2024年	2029年	出典
延べ宿泊客数 (調査対象施設)	122,676人泊/年 (69,312人泊/年)	135,000人泊/年	150,000人泊/年 (約85,000人泊/年)	隠岐観光協会集計 データを基に推計
延べ宿泊客数 (観光目的)	68,085人泊/年 (55.5%)	80,000人泊/年 (59.3%)	95,000人泊/年 (63.3%)	隠岐観光協会推計値 ×隠岐観光協会調べの 比率で算定
旅行消費額 (島へのアクセ ス費用は除く)	(R1年調査中)	－円/人	－円/人	隠岐観光協会 アンケート調査 (宿泊事業者・来訪者)

※延べ宿泊客数(総数・2018年)は、隠岐観光協会集計データ(調査対象:全宿泊施設容量の56.5%)から推計。伸び率は、宿泊事業者アンケート(H31)における理想とする宿泊数を参照(約20%増)。

観光客比率はH30年調査(島根県隠岐支庁)で55.5%となっている。ビジネス客(約55,000人泊)は現状維持とし、増加分は概ね観光客での達成を目指す。

延べ宿泊客数=69,312人泊/年(調査対象施設)÷56.5%=122,676人泊/年

目標値=122,676人泊/年×1.2=147,211人泊/年⇒150,000人泊/年

(調査対象施設=150,000人泊/年×56.5%=84,750人泊/年⇒85,000人泊/年)

延べ宿泊客数(観光目的)=122,676人泊/年×55.5%=68,085人泊/年

延べ宿泊客数(ビジネス)=122,676人泊/年-68,085人泊/年=54,591人泊/年⇒55,000人泊/年

延べ宿泊客数(観光目的)目標値=150,000人泊/年-55,000人泊/年=95,000人泊/年